



小松 理虔

1979年 いわき市小名浜生まれ（40歳）
2003年 法政大学文学部卒業
2003年 福島テレビ報道部記者に
2006年 中国・上海へ移住
2009年 帰国して地元で活動をスタート
2010年 ウェブマガジンtetoteonahama創刊
2011年 オルタナティブスペースUDOK.開室
2014年 いわき海洋調べ隊「うみラボ」開始
2015年 独立して「ヘキレキ舎」立ち上げ
2017年 「igoku」創刊
2017年 「さかなのば」スタート
2018年 「しらみずアーツキャンプ」開催
2018年 『新復興論』を刊行

ヘキレキ舎

小松理虔による地産クリエイティブの個人事務所。地域の中小企業の広報・PRなどの支援、食や情報発信などのプロジェクトマネジメント、出版物の企画・制作、執筆などを行なっています。

オルタナティブスペースUDOK.

サラリーマンを続けながら、夕方や夜間、休日に表現行為などを行う暮らしを「晴耕雨読2.0」と規定し、その「雨読」の時間を過ごす場所として、2011年5月に開室。様々なイベントを開催。

いわき海洋調べ隊 うみラボ

民間人主体の海洋調査ラボ。アクアマリンふくしまなどと共同で月に1度、福島第一原子力発電所沖で魚を釣り、その放射線量を測定し、ブログで発信。2016年国連多様性アクション特別賞。

いわきの地域包括ケア「igoku」.

いわき市地域包括ケア推進課と協働。だれもが、自分の生まれ育った地元で、最期の瞬間まで暮らせるよう、医療福祉、介護、地域づくりの担い手が連携する地域包括ケアを紹介している。2018年グッドデザイン金賞およびファイナリスト。

さかなのば

小名浜の鮮魚店「さんけい魚店」を会場に、毎月開催される魚食イベント。これまで30回開催、のべ1500人以上を集客。常磐ものの美味しさを、地酒とともに届けている。

しらみずアーツキャンプ

いわき市文化振興課とともに実行委員会を結成し、いわきの旧産炭地「内郷白水地区」で、アートやツアーを軸とした様々なプログラムや展示を実施。2019年度まで、3年連続で開催。

